



自治体 PR 合戦！ ～お隣の国・韓国にて～

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 池之上 祐太 (鹿児島県派遣)

韓国との自治体交流と PR

韓国とは 2018 年 6 月現在、162 の自治体が姉妹都市協定を結んでおり、交流が盛んな国です。昨年開催された平昌（ピョンチャン）冬季オリンピック・パラリンピックでは、平昌郡が属する江原道や道内市郡と姉妹交流関係にある自治体が広報ブースを設置して来場者に観光 PR を行うなど、姉妹交流がそのまま PR につながっていく事例も多いのではないかと思います。

また、韓国では大手旅行会社のハナツアーとモドゥツアアがソウル市や釜山市で世界旅行博覧会を毎年開催していますが、毎回、日本からも多くの自治体が PR ブースを出展しています。特に、昨年 12 月に釜山市内で行われたハナツアーの博覧会では、「九州」が推薦旅行地としてクローズアップされ、九州から佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県の 4 県が参加して、温泉や焼酎をはじめ、熱い PR 合戦を繰り広げました。

今回は、そんな隣国・韓国で繰り広げられる各地方のさまざまな PR 活動について紹介します。なお、文中意

見にわたる部分は私見であることを申し添えます。

ソウルで本格焼酎の女子会

2018 年 6 月、ソウル市・江南区の SAKERIA IKKON で韓国の女性に本格焼酎と日本酒の魅力を堪能してもらうペアリングディナーが開催されました。このイベントは、韓国での焼酎と日本酒の普及を目的に、鹿児島県の西酒造株式会社と鳥取県の稲田本店と協力して共同開催したものです。今回は、家庭または職場でイニシアティブを持っているであろう女性にターゲットを絞り、いわゆる“女子会”の形で実施しました。

当日は 18 名の方が参加しました。お洒落で落ち着いた雰囲気、かつ粋な日本料理の提供が可能なお店ということで前述の会場を選定したということですが、わいわいと騒がしく楽しむ文化がある韓国ではなかなか見つけるのが難しいのも事実です。そんな中で苦労して探し出した SAKERIA IKKON では、独創的で高品質な食事とサービスで、見事に日本のお酒を楽しんでもらえる雰囲気を作ってもらえたとか。参加者からは、「同じ商品でも、



旅行博覧会の盛況ぶり



焼酎・日本酒の魅力を堪能

飲み方の工夫ひとつで料理との相性が変わるのを初めて経験した」、「鹿児島の芋・米・水・瓶詰にこだわって作っていることに感銘を受けた」、「鹿児島に行って黒豚しゃぶしゃぶと一緒に味わってみたい」などの感想が寄せられ、焼酎の魅力と同時に鹿児島の魅力も知っていただけのイベントになったのではないかと思います。

一方で、「漢字のラベルが読めないのでハングルで表記してほしい」などの意見も寄せられ、今後の販路拡大に向けての課題が見えたのも収穫になりました。西酒造の担当者によると、今後も同様の取り組みは行う予定とのことで、焼酎のさらなる販路拡大と魅力発信が期待されます。

県産木材で韓屋を！

韓国では、韓屋（ハノク）と呼ばれる伝統の木造建築が長い歴史の中で親しまれてきました。近年、大都市では高層アパートが主流ですが、それでも木材建築に対する関心は高く、それらに応えるため、宮崎県と愛媛県が独自の取り組みを行っています。

まず、宮崎県では、韓国では韓屋のように木材が外部から見える建築が好まれる傾向から、県産のプレカット材の輸出に力を入れています。韓国の建築関係者や関心のあるエンドユーザー向けに定期的に開催している「木造軸組構法セミナー」では、昨年7月、日本の耐震技術や宮崎の事例として居心地の良い木の空間づくりについて紹介が行われ、定員150名のところに200名の木材関係者が参加するという大盛況ぶりでした。また、ソウル市内では実際に宮崎県産スギを使用した韓屋が建築

されて人が居住しています。

一方で、忠清南道・公州（コンジュ）市にある伝統家が並ぶ観光地「韓屋村」にも宮崎県産のスギを使用した韓屋が建てられ、こちらは木材関係者のみならず、観光客からも大きな注目を集めているところです。

愛媛県では、愛媛県産材製品市場開拓協議会が2017年11月、京畿道・平澤（ピョンテク）市に愛媛県産材を用いたモデルハウスを建設し、構造見学会では棟上げ式などの演出も交えながら現地の工務店や設計士の視線を釘付けにしました。2018年6月には完成見学会も実施し、木材関係者や地元住民をはじめ約80人が足を運びました。訪れた方からは「木が醸し出す雰囲気がとても良い」などのコメントがあり、好評を得ました。

新世界百貨店に〇〇登場！

平昌冬季オリンピック・パラリンピックが開催される直前の2018年1月、平昌郡がある江原道との交流がさかんな鳥取県は、大山開山1,300年を迎えるこの機会に一層の交流の発展を祈念して、新世界百貨店の食品売り場で観光物産展「TASTY TOTTORI」を開催しました。会場には、名峰大山の麓で生産された新鮮なミルクをふんだんに使用したアイスクリームや鳥取県オリジナルの名酒「強力」で造られた辛口純米酒をはじめ、鳥取県の豊かな自然と伝統の技に裏打ちされたグルメが数多く並びました。期間中は、連日、売り場を埋め尽くすほどの多くの買い物客が訪れ、手に取り、味わい、鳥取の魅力を肌で感じました。

また、開催期間のうち、金～日曜日には鳥取県出身の



宮崎県産スギで建てられた公州市の韓屋
(公州韓屋村公式ホームページより引用)



新世界百貨店に登場した鬼太郎とコナン



漫画家による作品『ゲゲゲの鬼太郎』、『名探偵コナン』のキャラクターが登場しました。韓国でも日本のアニメは人気が高く、当日は来場者と記念写真を撮影するなど、ファンの心をぐっと掴みました。

鳥取県からは、米子空港とソウルの直行便のほか、平昌オリンピック・パラリンピックの際には、鳥取空港と襄陽（ヤンヤン）空港間に記念チャーター便も就航しました。境港からは江原道の東海（トンヘ）とロシアのウラジオストクを結ぶクルーズ船もあり、鳥取－韓国間はアクセスが充実しています。新世界百貨店で物産展をはじめ、さまざまなPR活動を通して、鳥取ファンの獲得に継続して力を入れています。

おわりに

2017年に韓国から日本への韓国人訪日客は700万人を突破し、2018年にはそれをさらに上回る750万

人以上（日本政府観光局（JNTO）の推計値による）の韓国人が日本を訪れました。最近では、北海道、東京、大阪、福岡、沖縄などのゴールデンルート以外の地方へ足を伸ばすリピーター客も多く、各地方はインバウンド客の誘致に大きな可能性を秘めています。

南北に細長い日本は、地方で気候も大きく変わることから、食、酒、自然、建築、文化など、同じ国内でもまったく違う環境が広がっており、豊富な観光資源に恵まれています。その豊かな素材をいかにして韓国をはじめ、海外に発信していくかは、これからのPRにかかっているのではないかと思います。クレアソウル事務所では、さまざまな自治体の韓国でのPR活動を支援していますが、その度に、地方によって異なる魅力を楽しんでいるところでもあります。今後も、ソウル事務所では自治体の韓国での観光・物産PRをはじめ、さまざまな活動を支援してまいります。



モドゥツアー旅行博覧会にて